

城西考古の歩み

第3部 草創期 1968



第3期生 共著



城西大学考古学研究会

城西考古の歩み

第3部 草創期 1968



第3期生 共著

城西大学考古学研究会

まえがき

清水先輩から受け継がれてきた「城西考古の歩み」も今年度
で三冊目、一部、二部、三部に「草創期」と名付けて、クラブ創
設のいわれや、発展途上の事項が記されてきたが、引き続き
今回は、五ヶ年計画も四年目を迎えた六十八年度を取り上げた。
この年は、南原、上台山夏、上台山冬と発掘に明け、発掘に暮
れた年でもあり、クラブ内は、活気に満ちあふれ、若さかほちき、
れんばかりで、先輩、後輩、ともに一丸となって、諸事にあたり
た年であった。

この匆忙だった一年間を、我々の負しい記憶の中から拾い
出してみた。これを讀んだ先輩達には、良き思い出として又二
の頃を知らない後輩達には、これからのクラブ運営上の一助と
なれば幸いである。

目次

越生南原遺跡発掘 3
 新入生紹介 12
 歓迎会 17
 第四回夏期発掘 23
 芸術祭 27
 第一回高麗祭 29
 "ナニ"のおはなし 33
 上台山冬期発掘 35
 付録 49

(2)

たのしみ南原遺跡の発掘である。清水さんからの発掘実施の葉書を受け取り、集まった部員が十四五人それに佐々木、樽見、深見さん等が加わり、賑やかな。そして初めて依頼された発掘という事で皆やる気十分な合宿でもあった。発掘場所は越生駅より西へ徒歩八分の風光明媚な畑の真中。宿舎は越生公民館であった。

一、宿舎

木造二階建の公民館の二階の一角が我々の寝泊りする宿舎であった。階段を上っていくとギシギシと音がし、こわれるのではないかと心配する。部屋は赤茶けた畳が三十枚程敷かれ、突はきっちり雨まらず、向風は骨身にこたえる。歩いただけで突がラスはカタカタ、布団蒸れんがやろうものなら公民館が倒れるとはかり堅守番のおじさんかお相

(3)

を変えて飛んでくる。特に部屋が一室というニン、ほりもが一瞬戸惑った。このうのは、女性が四人いたのがあるから

暗幕やら机やら囲いに使えそうな物を引つ張り出、屋の一角を区切った

まではよかったかどうしても、すき向ができてレキウ、さ「おんえるか」と喜ぶの声をあげる野郎がいる。朝なんが机をかたがけるのがいやなものだから、ホイ／＼と

投げ込み女性の安らかな眠りを引き裂く。「早く起すよ」「早く起きないと飯食っちゃうかー」、こゝで負けては女の恥とガボツと起き「ゴイー」とばかり投げ返す。

清水さんは、囲みの中に湯身のあるのをいいことにして、ちよい／＼やうて来ては、伸かもしない縮れ毛を一生懸命伸ばそうとする。その努力涙ぐましくも、この(4)

宿舎を忘れてはならないのが便所である。一階の階段のわきにある通路の突きあたり

にあるその便所は、下り蜘蛛が住みつきえうな作りである。お寺に面している窓が

ラスは割れ、壁にはひびが入り、血の流れたようなしみがあり、明りと言えは、うす

暗い裸電球が一つ、水流などという文、とは、ほど遠く汲取り式、それ故臭気もすさ

ましい。用を足している、このままでも、さしてしま、さうで、下なんか見せしめう

。「下り蜘蛛がいたかー」と叫ぶ音、めげずボンを、げながらトタムタと階段を上

つて来るのが中川さん。(先生の一生二度の武勇伝、下、蜘蛛の話を知らないオは、本

人から直接お聞き下さい。やはり、あのたれ目と、さなれば、とうてい、実感

二発掘状況

四月一日 暖かい春の日を浴びて、いよいよ一週間の発掘が始まった。まず表面採集、面白くように土器破片があり、掘ったところ何か出るかと楽しみであった。トレンチを設定してからは、一人トレンチの割で掘っていく。出るわ(5)

出るわ、遺物係は、あっちへ行ったりこっちへ来たたりで大忙し。

Aトレンチは、遺物だけしか出さず一日で終り。次の日からは、トレンチ内に狸掘りを二つしてかまどに早変り。それに蓋のないうボールをかけ、

おいしい味噌汁を作った。味噌汁の「ミ」には、その辺に咲いている菜の花

や菜葉をもちろてきては「洗おうか」「めんどうくさい。そのまま入れ

ちやおう」又「あれ、ほりが入っちゃった」「辛気く、わかっちゃいな

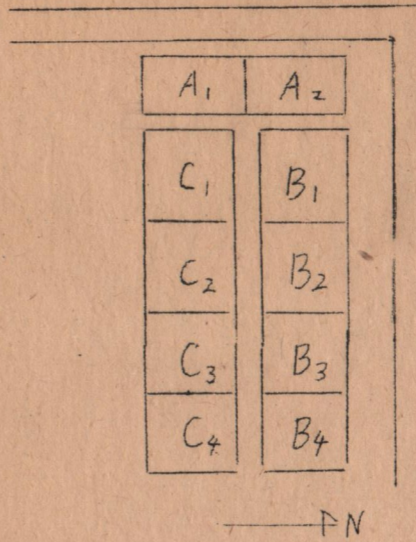
いのだから、こんな会話がかわされたのを知ってか知らずかよく食べ

た。「おいしい」と言っているも、底っぱらまでして(でもこ

の時のホール、後でカビが生えたということで矢田君に捨てられてしましました。ああなつかしきかなホール二つ)

Bトレンチは B₃トレを中心に住居址があり、拡張に次ぐ拡張、

至越生



中川さんは大きなピットを見つけて掘るわけがあるわ、姿が見えなくなってもまだ掘っていた。時たま頭を出す。「まぶしいなあ、あれ太陽が二つあるや」と皆かまぶしかつられていた。又、住居址の北側に石組が出て、これは何か意味があるかとばかり道路を進行止にして掘ったのですよ。道行く人は「水道工事かいな」と思ってたかトレンチをのぞいては、二首をかきしげで去っていく。道路まで掘った甲斐があったか、完形土器や柱穴を見つけて、皆大ニコニコ。この石組とは別に道路との境、二層あた

(6)

りに石の塊、何かあった。これと何か主要なものは、どうだろうと、丁寧に掘っていたところ、長靴はいたおっさんか「そりゃー昔、お宮があったところたんへー。それをこわすとき、石をまとめて捨てたんたー。なあ」がツクリ、それならそうと何故早く言ってくれなかった。

Cトレンチはというと、炉跡が出て、ニモまた拡張、焼土も出つくした頃、荒井さんの「今日、県の方で炉址の専門家が来ますから」という一言で作業を中止して、床面清掃をして待っている。「今日は来られないうです」。次の日来たと思っただら「ああ、これですか」だけとは、あまりにもひどい。

発掘もいよいよ大詰めの七日の午後、「あいたー」という先生の声。

すわっとばかり声のする方へ飛んでいくと、そこはC₁の拡張トレ。先生がそのトレンチを見てまわっていたところ、粘土柱が楕円形に焼土を取り囲むようになっているか。「ああ」一瞬皆冷水をかぶったような心地がした。そこにかま跡があったのだ。どうしてそれに気付かなかったのだろう。「先生、日にちなんかどうでもいい、掘りましょう」いや、絶対に掘るべき。この時逃したらもうできないうと口々に述べあつたが、依頼調査の悲しさよ。予算等の都合で涙を飲んでやむなく発掘

(7)

事にありつけないうか二人いるはず。このときはかりは、みんな真剣にジャンケンをしていったよ。そして、お茶をすまうて、皆を横目で見たから地面をほじくっていたのは清水さんと原田君、本当にお気の毒でした。お中かいはいになつたところ、近頃の小川に、めだかを採りに田んぼの中を突走る。川を突止め、手拭をぬらし、ズボンをぬらし、採れたのか、オタマシヤクシだけとは。それでも毎日飽きませず、パチャパチャ、けこうみんな楽しんでた。

四 一日の発掘を終つて

一日の発掘も終り、部屋に帰るとさあ夕飯だ。雨と同じ食堂へ、風呂の道具をもつて出掛けな。こいたい我々がどうく〜と入つて行くと、その店で食事をしていたおっさん達。しろう〜うさん臭そうに見、大急ぎで飯をかつこんで出て行つてしまふ。だから場所が小さかつても、すぐに座れる。又、この食堂は旅館も経営してあるので、風呂はこゝで入る。順番を待つ間、四五人の集団を組んでは、出ましないパチンコ屋へ足を向ける。かも、たまには、ちこ等をとつてきたか……

「何か、酒屋の息子だ、酒の産物につかつたんだや。」(産物は、うまか、おりのオケいようすね、何故かというとお酒だと、頭のてっぺん、そう、おびこの上あたりか、酔っぱらうようですか、だから、そのオケも、うすく、作る……)

各藤さんが東北弁でしゃべれば、先生がまねし、米谷さんが大阪弁で話せば、みんながまねする。あつちの角で、囲碁を始めれば、こつちの角じゃ、ホーカーを始め、寄屋の真中では、布団を引っぱり出して来て、花札賭博をやり、それに飽きれば、高田さんや藤原君のギターにあわせ、歌を歌い語りあった。

こゝろして夜のふけ方のも、忘れ遊び、十二時を過ぎる頃、明日の発掘の為に、と布団に入る。電気を消し、しばらくすると眠れない連中が、まよまよと布団から首を出し、ほそぼそと語り始める。すると先生も首を出し、先生得意の下り歌林の話しを始め、夜はつきない……

(11)

新人生紹介

四目の或る曰、新入生勧誘に出なかつた私は、部屋の戸を開けてビックリ、カラカラだった部屋か何とビッシリに見えるではないか。先ず目に入ったのは、後姿の女の長い長——髪。(今思うと後姿であったのでハ臆マヒホるまぬかれたのだ) あまり驚いたので思わず一度戸を閉め、呼吸を整え、更に完全に我が部屋であるかどうかを確認した上で、勇をふるい起してやっとハッとして来た次第である。この長い髪の少女が誰であろう、現在すっかり貫祿を捨て重なり、ま動かしやうともしないその名も高き給料未配の社長である。最近、逆に見目を見、新商売に鞍換えたか、其来の見通しは全くついていた。さて、その次は、またまた考古名物、悪名高き高三人組がド——といかえりありませう。まず一頭、最近コータローが全国的に売れて、るので、引年最近流行の先端を行くか如き人物、沢田洋君である。彼は、実にユニークな顔立ちで、歯が少し大きめなのを除けば、顔自体の一つ一つの道具建ては良いのだが、この道具が全体に配置されると、神は常に正しい者の見方なので、現在の顔に仕立て上げるのであった。それに二十歳の坂を起えた為、出足が悪くなり、馬券の売り上げが最近少々落ちたようである。

二匹ノ 佐野明宏君。これはもうよく見れば、わかが多くてうなずけるのだ。か、なつと見にはとてモ、二十ニ才などと思えない程、幼稚(あどけない)な顔をしている為、大分得をしている男である。ただ、足がちょっと短めで、足の向かう大学の坂道で富士が見えるのか、可笑であるが、まあ、顔の可愛さでゴマかして、るのでゴサイマスヨ。最近ハ、バルツ勤めです、かりスツコケ、長いノートを引きずり、カツつけて歩いてゐるようである。

三匹ノ 丸ノニキビ面に眼鏡をかり、ムツリと押し黙って仕事に励むと見えたムツリスケベの市川君。彼は初めは、前述一頭と一匹のギャアギャア騒ぎに隠れて控え目に、これも昔の知り草。今じゃ見てくれ、聞いちゃくれ、松の木切ればたれ下がる。それは考古のケムンパス。触れればたちまち痒くなる。まあ、このヤロー、してはつくねのモリ加減にして

忘れてなうないのか、この男。巨泉ばりの眼鏡をかけた、いつも二ツ二ツ調子良く、エラで笑って、バで泣いて、男一匹明ちゃん。元部長矢田君である。縄張り、赤羽あたりで貞末先生と争っていたため、合宿の時も大分先輩達に目をかけられてかわいがるれ、メロメロにスツコケていった。最近ハ、チャールズ・フロンソンに凝っているが、鏡で自分を写したとあんなのかね。アフリカの河でおかあさんかカバールと呼んでるんじゃないのかね。

越生の上台山で、この山頂への登り道はもうとう急で、当時の昼飯はいつも握り飯であつたため、大きな容器に山盛りにつかつていた。これを運んで来たのが根岸君。もし落としてもしたら皆に殺されるのではないかと必死の気持で運んで、死にちがいない。なぜかというところ、いつも登るのに足下ばかり気にして、必然的に目がタレたのではないかと、噂が実に真実性を持って聞かれるからである。根岸君と一緒に、食事当番をして、そのガテコノ、したやな野郎のNO1の矢田君が居た。この矢田君と共に忘れられないのは、彼とゴロで常にズッコケていた久保田君が居る。この二には心の寛い我も、丸の仁手小りに少々頭に来て、もう少しでゴヤセーとなるような場合が有る。あつた。でも頭を冷やしてよく考えみると、彼等は、カに自信がなく、池の、殺しても死なないような野郎だとはちよつと違つて働けたのは道理であつたのだ。時既に遅し……

青森は、八戸の住人、何谷地君がいる。体カモリ、仕事バリの選ましき男であるが、お国訛りのズー、弁で、酒が入るとますます弁舌、やかにして、野大来の考古学は俺で持つなどと言を吐いて、うちは良いのだが、更に酔うと、訛つてしまつて何を云つてゐるか全く理解不能だ。

何谷地君と並んで体格の点では横綱級の男がもう一人。新潟出身、和泉田君である。奇しても中川先輩と下宿を同じうした彼は、先輩に誘われて二年契約で、クラブにハッたという変り者である。体格に恥じずに実にエネルギーに働さ、その割に童顔で、二年の契約期間を立派に務め上げ、さうり止めを行つた。その引き際の見事さには、たゞ感嘆あるのみです。立っ鳥後を濁さず。

考百のオリスト、代田君も書かぬぼなるまい。彼は実にその考え方をして聖人君子の如く、先生をして実に勝てないと言わさしめ、献身的にクラブに身を奉げて働き、何事に対しても、常に真剣に立ち向う人でありませう。ちよつと身体が弱いのが心配だが、彼はこれからも、クラブをもく、と続けて活動して行くだろう。さき野郎どもの紹介は、これ位にして、いよく、女性に入ります。鈴木さんは既に紹介済みなので、それに女性かどうか？なので省かせて貰います。長谷川さん。新入生きつてのカワイイコちゃん、言うことハキ、返事バシ、で、中川先輩などは彼女に呼ばれるだけで目ジリテレーとな感じてござりましたヨ。次に佐藤さん……

落ちついた姉さんタイプの女性で、眉目麗しく、控え目で、万事全般に渡りおとなしく、実に感じ良い人でした。更には地味さん。こゝろも、地味な控え目な感じで、文句を言わず、モク、

と仕事をし笑うととんぱんに人なつ、くなくその顔がとても可愛らしい。実に辛ぼろ強く、よく細かいところの気のつく人です。

コンパ、どんじりにひりえしは、大阪生れの大坂育ち、先生と並び称せられる。が倶楽部のパーフェクトマン、井上喜由君である。彼はなかく手先器用な男で、学園祭頃までは、何とモダン研に入つてベースなんが弾ソフタ。これがどうソウか、学園祭前夜の我が倶楽部の徹夜ラーメンパーティーに参加し、同じホールのラーメン(学祭の項参照)などをソフタ。一宿一飯の恩儀に預かりまして、などとほざき、そのままスルと倶楽部に参加したという変種である。さすかパーフェクトマン、やるこたあ違うね。(16)

歓迎会

その一

コンパ、新入生歓迎のコンパである。

ソウの部会であつたか、新入生歓迎コンパの日取りが決まつた。六月八日土曜日とまあソウなつた。幹事を決めた。二人で有る。一人は坂戸を中心に、一人は川越を中心に捜すこと。ソホに人数が入れる所だが、わかつたな。ソして、なんかかんかやつて場所が決定した。川越の吉実である。ちつと不便ではないかな、まあソイヤ。よし坂戸はキャンセルしろ。ソして土曜日、授業が終り、川越へ川越へ、ソして吉実へ、吉実へと向つた。

コンパが始まつた。少しして、堀合会長が、ただ飲む、食う、じゃつまんないから、新入生はクラブへの抱負や批判をして欲しい、と言つた。すると、新入生は、こいぞとばかりに云うは、云うは、うるさい位にソつたのであつた。フロントにソウぞ。ソして盛りよつた。たところへ電話が入つた。なんと坂戸の石松ではコンパの用意をして待つてゐるので

早く来て欲しいとのことであった。なんだあーへ沈黙してワラカ?
ある) 「かい、幹事」どうしたんだヨ。坂戸が来いってか?」
「あれ、キャンセルしたんじゃないの?」 「あれ、どうしたんだかネー」
「しかたない、それじゃ石松まで行こう」 どこでどう向違ったか知らな
いか、これは大変なことですよ。 「しかたない。では諸君、石松で待
っていろ」といふかう二次会といふのではないか」 「そりゃいい、賛成」
「賛成」と一年生の圧倒的指示により二次会へ行くことになった。
費用、つまり会費、つまりバイトもしていい、貧しい我々の小遣
いから出るものが高くなるのになあ。そして、一同吉実を後
にしてバスに乗り、酔った顔で乗客にさうして一路川越の駅へ
そして、坂戸へ坂戸へと。(川越の駅で酔眼で見たバチンコ屋の
ネオンは印象的であったのオ)。
石松へ着いた。せまり、せまりのである。吉実が丁度の広さ
だったせいか?一人か前に出て、一人か後ろへきつと大ゆさ風)に
と、そんな様に座って、またコンバが始まったであります。
六月の八日でもあれもキュークツ、キュークツに座わらされた為か
とつても暑いののでセンプーキをまわしました。これがまた、

年ばかりのりとした、そして、とれとろいた、たいてい、うか(日記に
よると八時半)入口の前は流しかやっつて来ました。ギターとマンドリ
ンで知床旅情(ニの項を担当している者の願望なので、あえてつかわ
せていただきます)などをかんでおりました。と鳴りやみ
ました。そして、中に入って参りました。
「コンバンワ」と流しり二人、ヨツ、幹事のやつ味なことをするネ
エーと思つた瞬間、「あー、そっちでは有りませんよ、こっちの
部屋ですよ」と女中さん、
「ハア、なんだ幹事、ニニへ呼んだんではなかつたのか?」
考えてみれば当り前ですよ。ただでさえ財政が硬直している我
が考古のコンバへ流しを呼ぶなんてね。一同がツカリしてまた
酒なんぞを汲みかわし、歌なんぞを流しさんの伴奏なしで歌った
りして、やっと石松での二次会が終つた。
コンバは本当に長かつたナア、ツカレタ。

その二

雨りユネスコ村

なんだ かんたしていい、そんなある日の部会で新入生歓迎のため
皆で遊びに行こうではないかと、いうことになった。ハテ、どこかいい所
あろうか、と皆んなが考えた結果、ユネスコ村に決まった。という
のは、ユネスコ村でメキシコ展をやっているところのことであつたからで
ある。(当時、我が城西大学考古学研究会は中南米へは目を向けて
いた。)

埼玉県中々に住んでいる人達は本川越へ集合し、東京組は西武線(20)
池袋駅の前にあるサテライトの下に集合する事になった。

その日、朝からシトシトと雨が降っていた。その為かどうか東京組
も埼玉組も非常に集まりが悪かつたのであります。東京組は、時間か
きたので、西武線に乗って一路狭山へ、狭山へ、途中、飯能からの松保
さんを加えて狭山湖駅へ着いた。イナイ、イナイ、埼玉組か、
どうしたんだらうね、本当にもう、普通なところに着いていても
良いはずなんだかねえ。もしかしたら埼玉組のやつら今日、いやに
なつて来ないんじゃないかしら、等々と思ひながらしかたかない

た、まだ来ない、しかたない東京組だけで先行しようかと決定し、ユネ
スコ村の中に入った。そして入口から少し入った所にある海賊船の上に登っ
た。真向かいに駅が良く見えた。降り時、東京方面より、電車が入つて
来た。人が降りる、ヤ、ヤ、見た様なやつらだな、あつ、埼玉組だ
集合より遅れること三十分以上、いや一時間以上だったかな、まあ、とまか
く人数は少ないが一語に行動が出来ることになった。か、ごんじの様に
ユネスコ村には見ろべき物は何にもない。喜びのは小学生か幼稚園
の子供達だけである。でも少しはついて来た。オランダ風車の所へ来
た時、ネーリッパを渡された。雨の中を歩いてゐる参加者にとつては嬉
れしいプレゼントであつた。

そして昼食、昼食の後は、やつとメキシコ展をしている場所へ来た。出
口のすぐそばであつた。中へ入るとメキシコの民族服やピラミッドの模型
神々の壁画の写真、パネル等があつた。たか、たして面白くもなかつた。

「さて、次はどうしようかと先輩

「何もやることないからあり電車？西武園の方まで行きませんか」と後輩

「かたごとと西武園前までやつて来て、」入ろうかと誰か、「おれおれ入場

「今晚は、藤本義一です」

「安藤タカコです。今晚は」

「オタカハン、今日はね、ナニの話なんですよ」

「イヤ、ナニってナンドス」とその頃のいつもの調子で始まった。

そして、そへナニの話の大家である木崎ドクターが登場し、貞末先生

の紹介

「城西大学の貞末助教授です」と藤本さん。

そして、先生と数人の人達との間で話かはじめた。ナニの話は皆存

で

ナニの話、セラペルールの話（エウアドルだったかもしれないので貞末先生に

聞くこと）先生の専門の南米の話なのであります。木崎ドクターは、

ベルーリ赤十字の話、貞末先生はインカの話

（余談の時間、貞末先生が南米発掘に行った時のこと）でありました。

先生は、現地のインディオから絶対の同国人であると信じられて、疑われ

なかつたそうでありました。そして、この時、貞末先生がインディオのお嬢さんか

ら、秘伝のテレパシーを伝授されました。この時から我々日本へ侵入して

きたのであります。

そして話かはずみ画面にペルールの風景が写し出されました。

そして、木崎ドクターが織り物を取り出した。その時

「これは西陣織りです。カレとリ声が入った。一瞬あたりには、ドンチ

ラケの雰囲気かたまたまだった。その声の主は誰だろう。我が貞末

助教授の声でありました。アリア。

そして何となく、かんとか、11PMは終わった。

貞末先生は帰って来た。

そして我々に云うは云うは、しばらくコウファンがおさまるなかつたの

かあります。

上台山冬期発振

私達の四年間の学生生活の中で、約十回近く発振をしたが、その中でも、最もらく、楽しい思い出がある、すばらしい合宿であった。薄れた記憶をたどって、これからの教ページ、色々書いてみたいと思う。

学園祭も終わり、ホットしている所へ、夏の発振現場が宅地として、売られるので、発振されていらない所の全面発振を、越生教育委員会より依頼された。発振費(35)用二百円、発振面積三千 m^2 という膨大な所を、わずか二十日間で、それも授業と平行してやらなければいけない。始まる前に先生から、「生半げな、気持ちでは絶対やれない、ひささけるからには、みんなものっそり取りかかってほしい」と言われたが、その時の私達は、また発振が出来る、そして我々のクラブも教育委員会から依頼される様になったか、という喜びで、クラブの中は活気に満ちていた。まず人数が足りないのが、費用の中から一時間百円、バイト学生を雇うことになった。ところが、ある部員は全々ナシ、お金をなるべくこのクラブの大きな物を買うという事になったが、先生が憤慨して言うには、「部員はバイト生より数倍つ

15時	牛乳(オヤツ)
17時	お終り
18時	夕食
	その後、バチンコ、 オフロ、たまにはデー ト。etc

この時のマクフにやられ沃田君の顔が伸びきつた。事実をしろない人が多うと思ひます。

十分くらい続き、やっと全員起床、朝食も食べずに、朝の発掘が始まるのであつた。

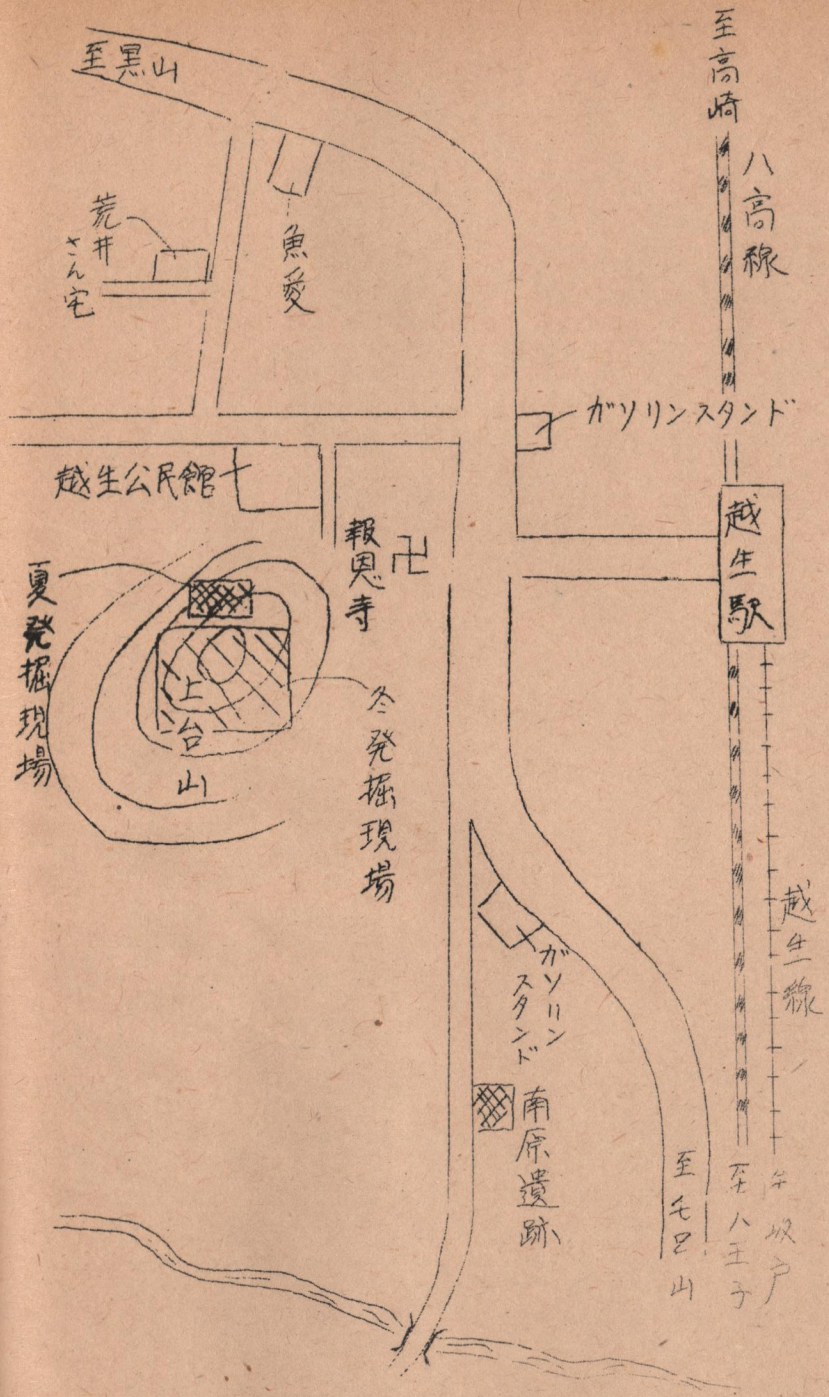
時のつらさ、もれでもまだ寝ている人には、マクラの爆弾が飛び散る。女子の所にも柵をのりこえ、寝んでくるから、いつもはオントヤかな女子も、美容にたいせうな眠りさまでいふとだまっていた。

「イデー、コッヤロー」 「んキヤヤロー」 (女子の声)
「イタイ、ヤメテ」 「ヤツタテ」 (男子の声)

二 朝の発掘

御飯を、食べていようが、いままが、地獄坂を登り土台の上にとりつくと、
発掘開始。「ナニボサボサしてりる」「サレ」「ヨイシヨ」男子諸君は、朝から自分の背よりも高いトレンチを掘りあげ、女子も一人で、背より幾分甘よりうらひはあける。
それだけ働いたあとの食事は、おいしいはあつたが、へきつければ、食欲は、目がた、につれな、か、く、食、ま、ま、体、も、ま、ま、が、食、事、の、相、言、葉、に、な、つ、て、し、ま、つ、た。食事が終わると、いつももの発掘もあると、これからまた全員発掘であるが、なんせ大学があり、我々は学生である。これから一時限目の授業を受ける者は大学へ、のこりの者はたとえ一人でも、二人でも発掘現場へと、出かけるのであつた。

六十八年度の発掘現場は越生町ばかりであったので、ここに越生町の略地図を載せておく。



付録

一九六八年からクラブ日誌をつけ始めました。クラブ日誌には、その時の涙、笑い、怒りか、うず高く積っています。ここに教通書き出してみたいと思います。

諸先輩方には、当時の思い出を、後輩諸君には、この当時の事を少しでも感じ取ってもらいたいのです。

クラブ日誌より

五月二十一日 (火) 晴

矢田記

午後から先生と中川さんと原田さんと越生発掘の準備調査へ出かけた。途中、中川さんがナニであるかナニでないか、ひっこく調べたが中川さんは、やっこの事で無事脱出したようだ。町役場では、たいたい話もましまり、今夏の発掘は、一様のめどがかったようだ。帰り道、少し火災を起したようだが無事着いた。帰って来ると、キャンデー(二人だけアイスクリーム)があったが、落したのをさっと拾って食べていたという話もあった。

又、明日天気になーれ!!

六月十一日 (火) 晴

佐野記

今日、先生が来て、先生を先頭に研究室の工器を整理した。きのうの雨で今日の体育は教室だと思っていたのに、晴れてしまって外でこつたりしぼられた。いさゝか体育で疲労したので、日談を戸部さんに書かせようと思ったのに、あのやろ来なかった。

head sense sense

戸部次の向に答えろよ。よいオに○をつけよ。

由一、佐野君に悪いと思うか？ (一)思う (二)思わない (三)わかんない
由二、佐野君に何かおごってやるか？ (四)やる (五)やらない (六)わかんない
このように書いてあるとおごろうとする気持ちもなくなりそう……

戸部記

(50)

今日は昨日の大雨と違ってかわり、汗ばむくらいの晴天でした。部屋へ来たとき、佐野さんが赤い顔をして遅かったと言いました。火曜日は毎週五時限目まであるのでどうしても遅くなります。佐野さんは知らなかったので「怒る」りも無理はないと思うのですが……

(後でアイスクリームをおごらせられました。大変私は損をしました。)

松保記

六月十三日 (木) 雨のち晴

松保、根岸記

今日は先生がいらっしやって、拓本を教わりました。酒井さんは大変上手に出来ましたか、私は失敗をして、恥かしくなりました。又、根岸君はホワイトトリカーと氷砂糖を買いに行ったついでに、清水さんの車でドライブに行つて来ました。そして、梅を漬けて、出来るのが待ち遠しいです。特に中川さんと根岸君

又、女子では、戸部さんと松保さんが出来上がりを持ち遠く思っています。

六月十五日 (土) 雨のち曇 高田、長谷川記

毎日ゆううつな天気が続いていやですね。皆さん。今日は日記担当(51)日である。何を書いたらよいのやら迷ったあげく、部屋中を見回した。

上級生が雑談してゐる。思いで話してゐる。中川さんは「おとなしい学生？」だったような

(ウソは罪悪なり)

下級生は唄っている。つまらない。接合ははかどるが私は頭にきてタバコを逆にかかしてみたら、色々種々雑多な人固が集まって、自分の人生を振り返ってあはれせられた話をしたが今は接合しよう

それからクラブ員の考古に入ったキッカケを聞いてみた。

堀合さん……発掘中 高橋さんに呼び止められ……としたら女の子がいた

のでマスマスやる気になった。

中川さん……清水さんにさそわれ入って見た所、カワイコちゃんがいるの

でウヒャウヒャ……

高田さん……つりをキッカケとして中川ちゃんと知り合い、カワイコちゃんか

いるから入らないかと言われ、つられて入る。

クラブ員の皆さん、入った動機は何であれ始めたからにはカンバツテ

ちょうだい。 以上 (52)

六月二十一日 (金) 曇り

根岸記

昼食を済ませてから部室に来た。部室の中はめづらしく部員でいっぱいになってた。早速、接合作業にとりかかった。丁度今日は当り台を見つけた為、自己最高記録を達成した(接合六回と二分の一)。この次は一日七回を目標に接合する心算だ。今日私は、日本脳炎の予防注射をうつ為、午後は毛呂病院に行かなければならない。故に後の事は南さんに引き受けてもらいたい。

六月二十二日 (土) 曇り

中川記

今日は昼から一時間はかり接合を行った。昨日のマトジャンの疲れが出ていたので、少し気分が悪いが何とか小さな破片を八つつけて面目を保った次第である。根岸が例のEトレの完形を二つツモったので俺も負けじと一つ大きなのをツモった。大変気分がいい!

二時頃から部室のそうじと整理を始める。二年前のEトレの土器が出て来て非常に不つかしい。俺もあの頃は、今と違って真面目な美青年だったのだなあ(?)と一人思いに耽っていた。みんな一人一人が一生懸命に働いている。特に一年生がよく働いていた。俺は、後輩にあまり大したことはしてやれないが、今に見てもらえ俺も男だ! 立派な先輩になって心底から後輩に親られる人間になるゾ! そんなことを考えている内におかしとアイススレッジが来た。食べる方に一生懸命になって今までの思いはどにかに消し飛んでしまった。

私ってやっぱりダメネ!

終り

六月二十六日 (水) 曇り

代田、田淵記

何をしてみたかわからないけれども、この日記を書くことにする。今日の午後四時に部室に来る。中川さんに今まで何をしたかと注意

される。次に皆でアミダをしようというのでやった。五十四とこられてしよんぼりする。又梅酒の濃いのを見せられて、ゴクリとのか鳴るような感かした。テービレコーダーのブークソングが聞こえてきた。なんだかこの日記を書きながら聞くとしんみりとしてきておぼつかなくなってきた。歌集の原紙を書く人達が色々音をとって、又、何を考えているのかおかしな歌いながら仕事をしている。午後四時三十五分に書くのを終える。

六月二十八日 (金)

田淵記

前略。今日ハ、部会。テハズナノデスガ、五一三番教室ニテ戦艦(54)ホチヨナントカヲ上映中ナノデ、ソノオニヒカレル人ノオカ多ク来タ人モ何トナクソワソワシテイルノデ、ヒョットシタラ今日ハ部会ハ流レテシマイソウナ状態アリマス。アツ、タダイマ先生ガイラツシヤイマシテ、中川サンガ土器ノ接合ヲヤロウトイウ声ヲアゲマシタ。原田、矢田両君ハ必死ニナッテ歌集ノ作成中デアリマス。一年生四人ホドハ、ナタ(危険多シ)ナドヲ用イテ竹ベラノ作成に余念ナク、今年ノ発掘ハ自分デ作ッタ竹ベラデ、サゾヨイモノヲ掘リアテルコトデアリマシヨウ。期待シテオリマス。後略

六月二十九日 (土)

酒井記

きうは何の日であるか、土曜の日である。部屋へは十一時十五分頃きた。それから拓本をする。模様のある土器片を全部したければならぬ。いろいろの始める。昨日で四十五日余りの土器片をすませた。今日もまたまた拓本をとる。誰か二三人手伝ってほしいと思ふ。部屋にある土器片を全部一人では出来ないし、時間もかかってしまう。中略。接合班は接合すること。どうしてもくっつかないならくっつくように考えて事をばこんでもういたい。それから接合又は他の作業に興味がないなら、真剣に打ち込める作業にかわって行なうオカよと思ふ。どうですか。一年生、またはひまな人へ告ぐ。現在自分自身の行っている作業をどう思っているか。また別の作業にかわりたいか。後二十日ほどで発掘作業(合宿)に入るので発掘に関連した仕事も増してゆくとおもう。クラブ員全員団結して発掘へ向って行きますよう。中略

それからクラブにくる方には、部会へ出席することやクラブ日記を書くためにくるのでは、めでたですね。自分に責任をもってクラブ(サークル)活

動を通じて人間を作る(自分自身の成長と精神的な)ことである。徐
は思っています。全員でクラブのムードを作りましょう。もっと書きたいのです
か。他は長谷川女史に書いてもらいます。お願ひします。今日はこれで失
礼します。

長谷川記

二時三十分頃部室に来た。今日はすごく暑い。接合は全々ダメ。
そこで酒井さん、中川さんに教わりながら、拓本とやらをしてみた。横で見
ると簡単そうだが、実際自分もやってみると大変むづかしい。何事も訓
練、経験だな。と酒井さんのやったのを見てつくづく思った。後略。(56)

七月一日 (月) 雨

鈴木記

雨かしと月曜日。私は一人でいやな日談を書いている(モナリサの微
笑の節でどうぞ)。現在二に居る人は、竹べら作業にはげんでいる(フ)。
(接合もしつめた感じでなにか林しい)
みんなの作った竹べらを拝見させてもらいました。なんと申しませ
うか、これでイーヘラーみたいで、こんなんでヘラの役目をするのたろ
うかと心配です。本物の発掘するのは、どんなものか経験するのが楽
しみです。

あの程度接合の仕方にも覚えなし、もっと色々なこと(拓本や復元その他)を覚え
たいなあ。

今日は文化連合会の総会が五一三号室で行なわれた。六十名位しか参加してな
いさびしい総会であった。

議題は(一)決算報告 予算承認(考古学の予算は三万六千二百円)など

(二)今年度行事計画(学園祭に関する事、他)

であった。

(後から遅れて来た人は、議長にこたわってからでないと入場できないと言われ
又、外に出された。ああ、みっともない)

学園祭の仮名「高麗祭」

テーマ「自然の創造」

と、いうことです。

(十月)

※注 この日より郵便番号制度が始まる。

七月十日 (水) 曇り

中川記

今日は一日歌集を作った。発掘器具の整理をする為、に部室へ来た所、
部員が全然来っていない。特に一年生が二人。何と情けないことか!
クラブを動かすのは常に一二年生である。何をされたのか!

あまったれるな！

こんなことでは先が奥にやられる。
少し考え直したまえ！

戸部さん続き、御願ひします。

十月二十八日 (月) 晴

清水記

高麗祭の準備に拍車をかける！！

土運川の佐野、代田西君、ハンギ塗りの酒井、市川、天田、レタリングの
長谷川、地崎さん、堅穴住居、漢刑を作る高田、根岸、後元の中川、
土器安定台を作る矢田、アトラクションを作る原田君、
特には皆で川原へ石を拾いに行つてくれる等、みんな、みんな一生
懸命やつてくれた！！これこそこれからの考古のありむ真の姿であろう。
今日はほんとうに、ごんろうさま！！

(58)

十一月十六日 (土) 晴

原田記

今日は一年は向谷地だけ。これどうしたこころ？

長瀬へ発掘の時の日用雑貨を買いに行く。(遠藤さん、高橋さんと帰りに
ニコマンとアンマンを買って帰る)
一般学生が発掘に参加する時のカードがスリ上っていた。

野球、一部二部入替戦は敗けた模様です。

発掘は後少しです。大変です。コワイです。

皆さん発掘に参加しましょう。

それじゃ、サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ……

明日は明日の風が吹く。

以上

ここにあげたのはほんり教編です。(原文のまま)

クラブ日誌は、ただつけていけば良いわけではありません。時には古い古い日
誌も読か返して下さい。キツとキツと良い事が書いてあります。
日誌はいつまでも生きています。

(59)

おわり

あとかき

俺達はやるんだ" 私達はやるんだ"と大学の授業のあり方を
ぬって発掘に出掛けに行った二年前
今思い出すと、最も充実し、楽しかった時期ではなかったかと思う。
少人数で発掘した南原、真夏の炎天下、汗をふきく、蚊にさされ
ながら発掘した上台山夏、そして学祭、更に、十二月の上台山
発掘と早馬燈の如く我々の脳りをかすめる。
そして、クラブだけではなく勉強の方も、授業は面白いさほ
たか、決しておろそかにはしなかった。冬の発掘の時など、試験
勉強と発掘、二またかけてやっていった。とにかく誰もか一生懸命に
やった年であった。

大学も六年目を迎え、新設大学の良さ(若々しくやる気十
分な気迫)を失いつつあるように思われるが、我が考古学研究
会だけでも現状に甘えず、常に新鮮にファイトをもって、発展
させていってほしい。

